

エルロン都府楼南 児童発達支援 事業所職員自己評価結果

令和2年度分

職員数 12名

回答 12名 (回答率 100%)

公表日 令和3年3月3日

% 表記

| | チェック項目 | はい | どちらともいえない | いいえ | 無回答 | 意見 | 対策 |
|--------|--|----|-----------|-----|-----|--|---|
| 環境体制整備 | ① 利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である | 83 | 17 | 0 | 0 | 長期学校終日時には適切かどうかわからない | 普段使わない部屋を使いやすくかえていくことにする |
| | ② 職員の配置数は適切である | 83 | 17 | 0 | 0 | 個別対応が必要な児童が多い時には不足を感じる 法制上の職員数ではなく 利用者の必要度に応じた 人数にしてほしい | 本年は"密"を避けることと、療育の質を保つことのバランスが難しい年だった。利用者の必要度に関しては積極的に発言を求め改善につなげる |
| | ③ 生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっている。また、障害の特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている | 83 | 17 | 0 | 0 | 荷物棚等、壊れかけのものがある 出入口が狭い | 気づいた時に発言をしてほしい。壊れかけのものは交換する。出入口は周辺の住宅への騒音とならないよう配慮したもので変更不能。 |
| | ④ 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっている。また、子ども達の活動に合わせた空間となっている | 83 | 17 | 0 | 0 | 玩具が多い | 玩具が多いこと(本も多くて片付けができない) = 療育の手段を選べる枠が広いと捉えたい。問題は片づけ方を工夫することで改善する |
| 業務改善 | ⑤ 業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に広く職員が参画している | 33 | 50 | 0 | 17 | | 業務改善会議にパート職員の参加を検討する |
| | ⑥ 保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている | 75 | 17 | 0 | 8 | | 前回よりも回答率が下がっていることを検討課題としたい |
| | ⑦ 事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開している | 67 | 17 | 0 | 17 | | HP掲載を職員が知らないということがないように周知徹底する |

| | | | | | | | | |
|----------|---|---|----|----|----|----|---------------------------|---|
| | ⑧ | 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている | 8 | 67 | 25 | 33 | | 義務ではないし容量オーバーとのことで引き受けてもらえない。次年度に。 |
| | ⑨ | 職員の資質の向上を行うために研修の機会を確保している | 58 | 33 | 8 | 8 | 全体カンファレンスがあるといい もっと機会が欲しい | 本年はパンデミックのために不十分で会ったことは否めない。収束後に期待 |
| 適切な支援の提供 | ⑩ | アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成している | 83 | 0 | 0 | 17 | 職員間でカンファレンスをして作成している | モニタリングだけでなく、毎月カンファレンスをして細かい対応の変更をしている。職員が周知できるよう伝達している。 |
| | ⑪ | 子どもの適応行動の状況を図るために標準化されたアセスメントツールを使用している | 33 | 83 | 8 | 25 | | 標準化されたアセスメントを熟解する機会を持つようにする |
| | ⑫ | 児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」「発達支援(本人支援及び移行支援)」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されている | 50 | 50 | 0 | 17 | | ガイドラインの理解を深めるよう時間をとる |
| | ⑬ | 児童発達支援計画に沿った支援が行われている | 75 | 25 | 0 | 0 | 場面に合った支援をしている | 支援計画を職員が周知し支援できている |
| | ⑭ | 活動プログラムの立案をチームで行っている | 42 | 50 | 8 | 17 | | 全職員の意見を統合できるよう意見を求める |
| | ⑮ | 活動プログラムが固定化しないよう工夫している | 92 | 0 | 0 | 8 | 担当者が作成 | 長期にまた俯瞰的に計画している全員にではないが完成前に職員に回覧して意見を吸収することもある。 |
| | ⑯ | 子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成している | 75 | 25 | 0 | 8 | | |
| | ⑰ | 支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している | 92 | 8 | 0 | 8 | 毎日朝礼の時間がある職員間で声を掛け合っている | 今後とも朝礼をきちんと行い、子供の状態に対する共通理解を維持する |

| | | | | | | | | |
|------------------------|---|---|---|----|----|----|------------------------------|---|
| | ⑱ | 支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している | 83 | 17 | 0 | 0 | 必要時している 毎日してほしい 大切な申し送りはしている | シフト上早く退勤したり、送迎に出るなどで終礼に参加できないスタッフも出る。伝達手段を工夫（日誌の裏にメモする）。 本年はパンデミックの影響でできない日もあり、不都合が生じないよう伝達に苦慮している |
| | ⑲ | 日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている | 92 | 8 | 0 | 0 | | |
| | ⑳ | 定期的にもついでを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断している | 100 | 0 | 0 | 0 | | |
| 関係機関や保護者との連携関係機関や保護者との | ㉑ | 障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している | 92 | 0 | 0 | 8 | 事前に職員の意見を聴取したうえで担当者が出席している | 最も確実に把握しているもの（主に児童発達支援管理責任者）が出席している。 |
| | ㉒ | 母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っている | 58 | 42 | 0 | 8 | | |
| | ㉓ | （医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合）地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っている | 42 | 50 | 8 | 25 | | 医療的ケアを必要とするケースを支援したことがない。 相談を受けたことはあり、その際は紹介をいただいた機関、保護者と十分話し合いを持っている。 |
| | ㉔ | （医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合）子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えている | 25 | 67 | 8 | 50 | | |
| | | ㉕ | 移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校（幼稚部）等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている | 83 | 17 | 0 | 8 | 気になることは速やかに情報共有している |

| | | | | | | | | |
|----|----|--|-----|----|----|----|--------------------------------|--|
| 連携 | ②⑥ | 移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている | 83 | 8 | 0 | 8 | 引継ぎシートを作成している TEL連絡も多い | 求めに応じて情報を提供し、相互理解を促進している |
| | ②⑦ | 他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている | 50 | 42 | 8 | 8 | | |
| | ②⑧ | 保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障害のない子どもと活動する機会がある | 0 | 25 | 50 | 25 | 定型発達の子供たちとの交流の必要性は感じている | 公民館でのサロン、図書館でのお話会を利用する。但しパンデミック収束後に。 |
| | ②⑨ | (自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加している | 8 | 58 | 33 | 33 | | 自立支援協議会については情報不足であり、参加ができていない。特に本年度はコロナ禍の下活動しづらかった。 |
| | ③⑩ | 日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている | 100 | 0 | 0 | 0 | お迎え時にお伝えしている | 当事業所は帰りのお送りがなく、お迎えに来ていただくので、伝達が複数のスタッフでできる。 |
| | ③⑪ | 保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)の支援を行っている | 33 | 58 | 8 | 25 | | 定期的および個別のペアレントトレーニングは行っていないが、お困りごとへの考え方や対応方法の助言を行っている。特にペアレントトレーニングをご希望の保護者がいない。 |
| 保 | ③⑫ | 運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っている | 50 | 25 | 0 | 25 | 担当者が行う | 主に契約時にしっかりと説明してるが、個室対応のためその方法、内容について職員全員が周知しているわけではない |
| | ③⑬ | 児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ている | 67 | 33 | 0 | 25 | | |
| | ③⑭ | 定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている | 92 | 8 | 0 | 0 | 保護者の求めに応じて助言をしている サロンでも話をする | <喋ロン>の前後に相談したり、工夫を求めたりなさることが多い。<喋ロン>をその機会とされている。 |

| | | | | | | | | |
|------------|---|---|----|----|----|----|---|---|
| 保護者への説明責任等 | ⑳ | 父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している | 92 | 0 | 8 | 8 | サロン形式の<喋ロン>を定期的に行っている | <喋ロン>が役に立っているよである。 |
| | ㉑ | 子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応している | 92 | 8 | 0 | 0 | | |
| | ㉒ | 定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している | 92 | 0 | 0 | 8 | <エルロン通信>を毎月発行している | A3版で待合室に掲示することとし、職員も見ておくことを推進する |
| | ㉓ | 個人情報の取扱いに十分注意している | 92 | 8 | 0 | 0 | | |
| | ㉔ | 障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている | 92 | 0 | 0 | 0 | | |
| | ㉕ | 事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている | 0 | 58 | 42 | 25 | | 本年はパンデミックのために企画もできなかった。 |
| 非常時等の対応 | ㉖ | 緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施している | 92 | 8 | 0 | 0 | 勤務時間内にマニュアルやファイルチェックの時間を設けている | 昨年よりも認知度が上がっている |
| | ㉗ | 非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている | 83 | 17 | 0 | 0 | シフト上避難訓練の日に出動しないことがある | 毎年スタッフ全員が訓練に参加することは難しい。回数を増やすことを検討。 |
| | ㉘ | 新型コロナウイルスの感染予防等、所内の対策は適切である | 75 | 25 | 0 | 0 | きちんと時間を決めてもっと換気をしたほうがいい | 当事業所は24時間換気システムがついているので、いつも換気している状態である。その点職員の認知度が低かった |
| | ㉙ | コロナ禍による自粛期間中の支援(在宅リモート支援を含む)は適切であった | 92 | 8 | 0 | 0 | できることを考え全員で頑張ったと思う | 初めてのことに對し、職員は真摯に頑張ったと思う。また他の事業所の情報も得てより良い支援に結び付けたい。 |
| | ㉚ | コロナ禍の下で就業する職員に対しての配慮は適切である | 75 | 25 | 0 | 0 | フェイスシールドの支給がありがたかった マスクを着けることは療育にはマイナスなので | エアマスクを支給したが、職員皆の意識が高く、効果期限に対しての注意をしっかりと把握して交換してくれた。フェイスシールドは使用になれると安心感が高まる。 |

| | | | | | | | |
|----|--|-----|----|----|----|----------------|--|
| ④⑥ | 事前に服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認している | 100 | 0 | 0 | 0 | | |
| ④⑦ | 食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている | 50 | 25 | 25 | 17 | 保護者からの聞き取りのみ | 必要な時は情報を求める用意がある。 |
| ④⑧ | ヒヤハツ事例集を作成して事業所内で共有している | 92 | 8 | 0 | 0 | 掲示板を通じて共有できている | 事例集を編纂しておく |
| ④⑨ | 虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている | 100 | 0 | 0 | 0 | 虐待研修があった | 本年度は、数回に分けて実施できた |
| ④⑩ | どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載している | 75 | 17 | 0 | 8 | 計画書には記載していない | 保護者の同意書をいただいている。職員には認識にばらつきがないよう、事故防止と抑制、虐待それぞれの違いを説明している。 |

※ アンケート 期間 令和2年12月20日～令和